式辞（２学期始業式）

皆さん、おはようございます。

この夏は皆さんにとってどのような夏でしたか。７月初旬の新札発行に始まり、野球部の県大会、インターハイに、パリオリンピック、膠着したウクライナやガザ紛争、台風災害など、良いことも悪いこともありました。

さて、今日はその中でも新札の１万円の肖像となった渋沢栄一について話そうと思います。渋沢栄一は埼玉県出身で江戸時代末期に農民から武士に取り立てられ、徳川慶喜に仕えます。明治維新後は大蔵省官僚として新しい国造りに取り組み、退官後は実業家として、東京証券取引所等を設立した他、５００社の企業に関わり、６００の教育機関等の設立や支援に尽力し、近代日本の礎を築いた方です。

そんな彼は「すべて、物を励むには競うということが必要であって、競うから励みが生ずるのである。いやしくも正しい道を、あくまで進んで行こうとすれば、絶対に争いを避けることはできぬものである。」と言っています。この言葉を勉強や部活動にあてはめて下さい。「争い」と言う言葉が、しっくりこなければ、競争または切磋琢磨と置き換えると良いでしょう。

飯田高校はそんなに切磋琢磨しなくても、あるいは残念ですがそんなに勉強しなくても入れたかも知れませんが、高校卒業後に次のステージに立つためには就職・進学関係なく、倍率が一倍を超える試験を受けなければなりません。それも見ず知らずの相手と一緒に試験を受けます。彼らとは確実に争いになります。その争いに勝つためにクラスメートとは日頃から考査や模試で競争・切磋琢磨して下さい。

また、渋沢栄一は「逆境は自ら招いた境遇なのだ」とも言っています。逆境は地震のように突然、自分以外の因子によっておとしめられることもありますが、逆境のほとんどが自分の怠惰に起因しているのです。何も努力せずにこのまま時間を過ごし、試験直前になって自分の成績を悲観したり、不合格になったりと、逆境を自ら招かないよう頑張ってほしいのです。試験や試合等、勝負事は「自分を優位な立場に置いてするもの」であり、最初から一発逆転を狙ってするものではありません。充分な準備期間が必要です。

７月進研模試の結果を見ましたが、どの学年も充分ではありません。一学期の終業式でも「後悔、先に立たず・後悔、後を絶たず・後悔、役に立たず」のお話をしましたが、後悔のないよう、今すぐスタートを切って下さい。飯高生は必ずできます。

最後に、今日から２学期が始まりますが、まだまだ暑いですので体調に留意し、学校生活に励んで下さい。

以上、始業式の式辞といたします。

令和６年９月３日

石川県立飯田高等学校長　角　秀明